

第 7 回自然と親しむ子ども山登り教室が始まりました！！

★説明会(4月6日)

参加者 子ども2名

スタッフ4名、会員(健常者)7名

第7回目となる『自然と親しむ子ども山登り教室』の説明会を実施した。

今回は、小学低学年の子供たちの参加が多く、3回目の武甲山までとなる子が多い。説明会には、小5のS君と、小2のA君が参加した。

★景信山(4月14日)

参加者 子ども6名

スタッフ6名

別働隊 会員(子ども1名、障害者1名、健常者5名)

親御さん2名

今年最初の登山は、春爛漫の景信山で実施した。本体は、子どもたちが6名、スタッフ6名、別働隊からの応援やボランティア参加の親御



説明会の様子

登山の実施計画や山での危険の対処などを説明し、気象に関しては、説明会のあと、引き続き、気象研究家の幣氏から講義をしていただいた。

記：網干

さんを含む合計14名、別働隊は、年長のAちゃんを含む7名となり、総勢21名となった。

大混雑の高尾駅で、小仏行きバスに乗る。小仏で下車し、自己紹介の後、Yさんのリードでストレッチを行って出発する。



植林帯を登る

ニリンソウなどが咲く楽しい車道だ。しばらく歩くと、高尾山のプロ、Aさんから地図に書

かれていないが、沢沿いに景信山に登るルートがあり、危険なところはなく、整備もされていると教えられる。歩きはじめてのコース変更だが、一般の道は混雑が激しいことと、信頼できるAさんの情報なので、教えていただいた新しいルートを登ることにする。

沢沿いの道は、いろんなスミレやキケマン、ムラサキケマン、ヨゴレネコノメ、ミミガタテンナンショウなどがたくさん咲くコースだった。子どもたちは沢での遊びを楽しみながら歩く。道は次第にジグザグとなり、景信山の山頂直下に向けてぐんぐん登っていく。足下には、エイザンスミレやタチツボスミレがたくさん咲き、ナガバノスミレサイシンもまだ咲いていた。



エイザンスミレ

タチツボスミレの群落を過ぎると景信山と城山の縦走路に飛び出した。城山方面の山腹は、桜の花や芽吹きの木々がとても美しく、すばらしいところだ。後の方にいた6年生のSちゃんが山頂直下で先頭に追いついてきた。



景信山山頂にて

山頂の見晴しの良いテーブルで昼食タイム

とする。富士山は見えなかったが、丹沢の大山が見え、周囲の山腹は春らしい雰囲気包まれて、ほんわかした気分させられる。昼食後は、山頂標識の付近で集合写真とする。餅つきをしていた人たちから、S君が餅をつかせてもらっていた。

山頂で集合写真を撮った後は、小仏峠に向かう。広い気持ちよい尾根を歩く。香りのすばらしいニオイタチツボスミレが咲いていた。子どもたちは、「良い匂いがする」と香りを楽しんでいた。



ニオイタチツボスミレ

満開近いヤマザクラを見て、さらに進むと、小仏峠に到着する。少し休憩したあとは、最後のピーク、城山に向かう。

急なところを登ると、眼下に相模湖が見える。S君は、あそこでカヌーをしたよと今年のキャンプのことを覚えていた。

城山に着くと、そこは桜や草花の楽園のようなところだった。子どもたちはラムネを飲んでいる。ふたを開け、ビー玉を取り出したら、店の人から「とれると知らなかったからビー玉を持って行って良いよ」ともらったそうだ。

山頂から舗装道路を歩く。ヒトリシズカが咲き、アカネスミレやいろんなスミレが咲いている道だった。Y君は、「また沢で休もうね」と何度も言う。Aさんに良い場所がないか聞いたら、少し行くとあるというので、そのまま先頭で下っていく。道の脇には、タカオスミレも咲いていた。

かなり長い距離だったが、ニリンソウの群落

のある広場で休憩する。子どもたちは、水を得た魚のように沢で遊んでいた。

少し歩くと日影のバス停に着いた。何とか、予定通りのバスに乗り込み、高尾駅へと向かった。暖かい春の一日を子どもたちは十分に楽しんだようです。協力していただいたみなさま、ありがとうございました。 記：網干



沢で遊ぶ子どもたち

《参加者の感想》

2013 年度の子供登山教室がはじまった。子供たちが待ちに待っていた日は晴天でYは朝からハイテンション。Kは寝ながら洋服に着替えている。

電車ではおとなしかったふたりも高尾駅が近づいてくると笑みがでてくる。アルプの人たちをみるなり、大騒ぎ。昨年キャンプでお友達になったAくんにも会えてYはうれしそう。山歩きではKは相変わらずリーダーABさんにぴったりついてる。なかなかやるな～K。これから先が楽しみだ。そのKから「せっちゃん、がんばれ」と声援をもらう。

Yは子供リーダーのSくんにくっついてまともな道なんかあるか、倒木の多い、藪の中

を直登して歩いている。そういう危険なところが男？の野心をそそるんでしょうか。Sくんがまっとうな道はつまんないっていうのであるほどわかってらっしゃる、と感心してしまった。ボーイスカウトのような整列して歩くなんてのはできてないが、元気で自由に笑顔いっぱい大人わたしたちがパワーをもらっているようだ。

真っ黒になっても靴がずぶぬれになっても笑顔いっぱいの子供達。沢で水にたわむれてる姿が一番うれしそうだった。やっぱりこどもは水が大好き。

高尾で京王組の人たちとお別れ。Aくんも京王組からJR組に変わってくれて・・・まだまだ離れたくない子供たち。とうとう新宿についてしまって、Aくんたちとわかれたら笑顔も消えて、混雑してる電車でごっこごっこ、あわてて作ったザックのベッドにもたれて眠り込んでしまった。よく頑張ったね、おつかれさん。今年も頑張ろうね。

リーダーはじめスタッフの皆さん、別働隊の皆様、お疲れ様でした。いろんな目で見守っていただき、たくさんの言葉をかけていただき、ありがとうございました。人は人の中で育つ。子供たちはちゃんとアルプの中で育っているようです。 記：S.Kさん

コースタイム

小仏(9:50)…景信山(11:25-12:25)…小仏峠(13:00-13:10)…城山(13:40-14:00)日影(15:20)

★三頭山(5月19日)

参加者 子ども5名

スタッフ5名

別働隊 会員(子ども1名、障害者4名、健常者6名)

親御さん1名

会員外(子ども1名)

心配された雨もどんどん良い方向に予報が変わり、雲は多いもののとても良い天気恵まれた。

都民の森で、自己紹介をして出発する。キビタキやオオルリ、ミソサザイの声が聞こえる。耳を澄ますとツツドリの声もする。チップを敷き詰めた登山道に、子どもたちは「どうしてこんなことをするの。土じゃだめなの。自然破壊じゃないか」と言う。あるがままの自然を愛する子どもたちだと、気持ちが温くなる。



三頭大滝を見物し、沢沿いのみちへと入っていく。水を見ると子どもたちの目が輝く。「休憩しよう」とうるさく言うようになる。かたや「早く行こう」という子もいる。どちらにも耳を貸さず、後ろとあまり離れないように、時々待ちながら登る。その時間が水遊びがしたい子どもたちには、最高の時間となる。足下には、ハシリドコロがたくさんある。「この草を食べると走り回って死ぬんだよ」と教えると、早く走れるんなら良いねという子どもたち。しかし、この草は、猛毒植物、食べると幻覚症状を起こして、苦しんで走り回ることからハシリドコロと言うらしい。要注意の植物です。

沢沿いから離れ山腹を登るようになると、ムシカリ峠は近い。オオルリの声も聞こえてくる。新緑のすばらしいところで、子どもたちの写真

を撮る。

小6のR君が先頭を登る。元気いっぱいの小5のS君も、6年生にはかなわないと認めていた。



山頂に到着すると、富士山が見えた。山頂は雲の中だが、まだ残雪を抱いている。山頂で昼食タイムとする。R君は、写真を撮って楽しんでいる。顔のアップ写真がとても上手く、表情を良くつかんでいるし、しっかりと顔にピントが合っている。将来が楽しみだ。Iさんが持ってきてくれたダチョウの操り人形を子どもたちは楽しみ、Y君は黄色いはっぴを持ってきて、ロックソランを踊ってくれる。SさんとS君は、山頂の丸太の標識の上に立って、バランスの良さをアピール。S君は、標識の上で考える人になっている。



集合写真を撮って、まずは三つのピークの縦走を行う。そして、下山にかかる。予定していたスポーツ歩道が通れないため、見はらし小屋から鞆口峠に下ることにする。ここは、急坂のため、子どもたちに前に出るなどと言うが、どん

どん行ってしまう。AさんとSさんに子どもたちの間に入ってもらい、もしも子どもが転んでも下で受け止められる体制を作って下る。それにしても、早くぐんぐん下っていく。年長のAちゃんも、小6と小5の男の子に負けず、付いていく。怖いもの知らずが心配だが、将来が楽しみだ。

予定よりも1時間早く都民の森に到着。三頭山には、子ども山登り教室で3回来たことになるが、今回が最も早いタイムで歩いてきたことになる。スタッフのみなさま、別働隊のみなさま、お疲れ様でした。ご協力、ありがとうございました。 記：網干



《参加者の感想》

回を重ねるごとに子供達の表情が変化していくのがよくわかります。

みんなの名前を覚え、仲良くなっていくのはもちろんですが今回は特にH.Y君の表情がとても柔らかく笑顔が増えたように感じました。

Kさんとてをつないで歩いている時に元気よく校歌を歌ってくれてとても楽しそうにしていたのでこちらも楽しくなりました。

先に先に行きたがる子、慎重に進む子、歩き方にもそれぞれの個性がでてるように思います。

先頭集団のスピードがすぎて、「1番先に行った人にはアイスあげない」とIさんが言うとピタッとスピードが抑えられたり、「先に行ったら次回参加させない」とリーダーが言うところまたピタッと止まったり、いろいろな反応

がおもしろいですね。

今回はT.I君も子供達に注意して、安全を確保する側に立っていました。大人になったT.I君、どんどん変化する子供達。

子供達の笑顔に元気をもらった一日でした。次回も楽しみにしています。 記：M.Yさん

今回は子供登山第2回三頭山に参加しました。前の日土曜日は運動会でしたが子供たちは日焼けした笑顔で元気に早起きして参加しました。初めて会う小6のRくんともはじめは距離が空いてても、そんな心の距離はすぐになくなり、みんな友達になってました。

まずはIさんから割り箸で作ったゴム鉄砲に大喜び。Iさん、いつもありがとうございます。さあ今日も新緑の山を楽しもう、なんて思ってたが、甘かった。今日は子供登山だ。山中ではとにかく子供たちのスピードが速い。23人のグループがバラバラ、離れていってしまう。とくに下りのスピードはスリルが楽しいのか、転がるようにどんどんいってしまう。ハセツネのAさんがそれを制御すべく先頭で子供たちの動力をおさえてくれている。リーダーに子供たちの間にはいってと言われるが追いつかない。そのうちこちらが転ぶのではないかと気が気でないながらも、子供たちになにかあってはと必死になって追いかけたが、それでも間に合わなくてSちゃんに「Sちゃん、追いかける？」と頼んだら飛びように追いついた。頼りになる人ばかりで有難い。普段はこんな大きなフィールドで遊ぶ機会のない、子供たち。羽根を広げてうれしそうだがそれを制御することは今後の課題なのかなと思いました。

Iさんの二番の人にアイスクリーム、という言葉聞いて、がくとスピードが落ちた。そこがやはり子供たちのかわいいところ。まだ食べ物で釣れる年頃。思わずKさんと大笑いしてしまった。

山頂で昼食を済ませてからYはソーラン節

を披露させてもらった。本人がどうしてもみんなに見せたいといって衣装までもっていったから本人は大満足だったことでしょう。どんどん成長してく子供たち。大人になったときにあの山、この山、いったこと。思い出してくれるかな～。

リーダーはじめスタッフの皆様、別働隊の皆様、子供たちへの温かい思いやりに感謝します。

また来月大きなフィールドで子供たちがどんな発見をするか楽しみです。 記：S.Kさん

コースタイム

都民の森(10:35)…大滝(11:00-11:10)…ムシカリ峠(12:10-12:15)…三頭山(12:35-14:20)…鞆口峠(14:20)…都民の森(14:40)

自然と親しむ子ども山登り教室感想文（第1回景信山）

今回は景信山へ登りに行きました。

わたしは、あまり行く気がありませんでした。でも行ってよかったと思います。印象に残ったのは、いろいろな花がたくさん咲いていたことです。

もう一つは、カエルのたまごを見たことです。触るとプルプルしていました。こんな近くで見たのは、初めてでした。そしてもう一つは、登っている途中、トカゲがいたことです。写真をとる時、ちょうど止まっていたので、上手くとれました。

つかれたけど、山での発見がたくさんあって良かったです。

S.Iさん

ひさしぶりの山登りでした。

ひさしぶりの山だからけしきがよくてつかれました。さわがにをつかまえるのが一番楽しかったです。またよろしくお願いします。

S.K君

○みんなにあえてうれしかった。

○べんとうをみんなで食べた。おいしかった。

○しょうたろうくん、あつしくんとでんしゃごっこ、たのしかった。

○かわであそんだ。みずにぬれた。たのしかった。

Y.K君

○おべんとうをのこしました。

○あつしくんとはしりました。

○いしをなげてあそんだ。

○つかれた。

K.Kさん

わたしはリュックがおもかったけれど、おねえちゃんにてをつないでもらいけわしいのぼりみちでもなかなかに山をのぼれました。みんなからおかしやラムネをもらっておなかをいっぱいにして山をくだり、かわあそびをしてと（て）もたのしかったです。かえりのでんしゃでは、あさはやくおきたのにぜんぜんねむくなくておきてました。

つかれてバスの中でねむってしまい、あるいてかえるのがつらかったです。またみなさんといけるのをたのしみにしています。ありがとうございました。

A.Yさん

4月14日はれ

ぼくは、おかあさんとあかりとはじめてけいしんざんをのぼった。やまへののぼりみちは、きゅうでほそいみちだったけど、ぼくのゆっくりしたペースでのぼりくるしくありませんでした。かわのみずがきれいで、やまからのわきみずがおいしく、えだでかわのいしをつついてあそびました。たのしかったです。

つぎもたのしみにしています。さぼーとしてくださったみなさまありがとうございました。

H.Y君

自然と親しむ子ども山登り教室感想文（第2回三頭山）

今回は、三頭山へ登りに行きました。

朝、駅で私と同じクラスのI君がきたので、びっくりしました。こういうことは、子ども山登り教室では初めてだそうです、なんだかちょっぴり嬉しかったです。

三頭山は、バスに乗って標高1,000mからの登山ということで楽だと思いました。だけど、険しい岩、木の根などがあって、想像以上に大変でした。でも、頂上では富士山が見えました。少し雲っていたので、はっきりとは見えなかったのは残念でした。

花はたくさんさいて、すずなり咲いている花や、大きな白い花がとてもきれいでした。きのこは、ほとんどみつかりませんでした。

次の山は、色々な種類の花、きのこや、頂上からはきれいな景色が見られることを期待したいです。

S.Iさん

もう5月なのに、山は冬が終わったような感じがしました。

とうげで大きな物が落ちてきたかと思ったら、生きもので足あともついていたのでびっくりしました。富士山が家から見るより近く感じました。

S.K君

Sくんといっしょにあそんでたのしかった。これからもいっしょにあそびましょう。

Rくんともいっしょにおべんとうたべました。Iさんのおもちやも家であそんでいます。

ゆうすけより。もうすこしながくいたかった。あいす、いっしょにたべてうれしかった。まだいきたいです。こんどはみんなといっしょにあそびましょう。

Y.K君

Iさん、てっぼうありがとうございました。もういっかいSちゃんと手をつないでふたりてをつないで。Sくん、あいすおいしかった。もういっかい手をつなごうね。もういっかい山へいこうね。またあいすたべようね。Sくん、がんばってのぼろうね。ゆっくりあるいてね。またいこうね、でもゆっくりとね。

K.Kさん

きょうはたくさんひととやまにのぼれてたのしかったです。かわのみずがつめたくてきもちよかったです。わりばしてっぼうでごむをとおくへとばせておもしろかった。

A.Yさん

自然と親しむ子ども山登り教室（親御さんからのお便り）

小学2年生の息子、陽騎と年長の長女、朱里を朝4時半に起こし、すっかり明るくなった朝の中、始発の電車に乗り、アルプの皆さんと合流してからは、陽騎が喜んでずっと電車の中で大きな声を出して、ペラペラとしゃべりまくって乗客の注目を集めていました。

山を登り始めたら、地面がふかふかで歩きやすく、公園の散歩道を思わせました。子供達は元気よく歩き、陽騎はKさんと手をつないでもらいながらゆっくり歩いていて、後ろから歩いている人達に励まされていました。

のんびりながらも山頂に着いた時にはホッとして、富士山が美しく見えました。

下山は石コロが多く滑りやすかったですが、登りと違い子供達はスピードを上げて歩きました。

今回の登山は、お天気にも恵まれ、多くの方から支援してくださり、ありがとうございました。次回も楽しみにしています。

Y.Yさん

山行報告

★唐松岳(3月16日～17日)

参加者 会員(障害者4名、健常者6名)

☆3月16日

新宿から高速バスで白馬八方に向かう。ゴンドラが16時までしか運転しないと言うことを聞いたので、八方池山荘に電話をして、確認してみると、ゴンドラは16時でも、一番上のリフトは16時20分が最終だから、ゴンドラは15時半頃乗らないと間に合わないとのこと。時間通りに着けば間に合うが、大幅に遅れると間に合わないため、心配しながら向かうことになる。

バスの運転手さんは、10分ほどの遅れだというので、それなら大丈夫と思うが、高速を下りてゆっくり走っているのがヒヤヒヤしながら何度も時計を見る。「もっと急いで欲しいんだけど～」と言いたくなるが、グッと抑えて時

計とにらめっこ。

何とか20分ほどの遅れで、バス停に到着し、急いでゴンドラ乗り場に向かう。ゴンドラも大勢並んでいて心配だったが、係りの方が、隙間から乗せてくださり、大変助かった。

ゴンドラの上のアルペンクワッドは、つい先程まで強風で止まっていたが、ようやく動き始めたばかりだとのこと。その上のグラートクワッドは止まっているとのこと。

アルペンクワッド終点の黒菱平からアイゼンを付けて登る。完全にアイスバーンになっていて、アイゼンがしっかり決まる。雪山に慣れていない人たちに、アイゼンを付けての斜登の方法を教える。Cさんから、それを聞いてから楽になったとあっていただき、うれしかった。

八方池山荘には大勢止まっていた。私たちは、玄関に入ってすぐ左にある1皆の部屋を取っていただき、明日の出発で他のグループに迷惑をかけないで済みそうだ。

夜は霧に包まれ、少し雪も降っていたようだ。



八方尾根からのご来光

☆3月17日

早朝3時に起きて、出発準備をし、4時10分に出発する。

南にはサソリ座がとてもよく見える。真っ暗な中を、アイゼンを利かせて登るが、風がかなり強い。最初の斜面は右側が切れているので、慎重に登るが、みんなが大丈夫か心配になってくる。

トイレの建物に到着したところで、もしもの場合に備えて、全員ロープで結び合う。ロープで結び合うと、下手をすると全員落ちてしまうことになるため、もし誰かがスリップしたら、全員で止めるようにしなければいけないと伝える。



モルゲンロートに染まる白馬三山

夏は八方池がすぐ下にある第3ケルンに到着し、もう少し行ってみるが、あまりの強風で、これ以上は危険と判断し、引き返すことにする。ちょうど日が昇って、山々がモルゲンロートに染まり始めたところだった。素晴らしい御来光とモルゲンロートの山々を楽しむ。

八方池山荘に泊まった他の10人くらいの

パーティーとすれ違い、私たちは第3ケルンで集合写真などを撮って、下り始める。しかし、早朝よりかなり風が弱くなってきたように感じる。メンバーの意見を聞くと、もっと上まで行きたいという意見がほんの少し多かったので、このまま帰ると時間を持てあますこともあり、もう少し行ってみることにして、再び登り始める。



白馬三山を背に

10人くらいのパーティーもロープをつないでいる。リーダーの方とひと言葉を交わしたが、あとでお聞きしたら、山岳ガイド「風の谷」の方たちだった。このグループは山頂まで行ったが、強風でよろめく人が多く、丸山で引き返して正解だったと言っていた。



鹿島槍ヶ岳

下の樺で休憩し、さらに急斜面を登り、上の樺付近を登る。とにかく展望は素晴らしい。目標としていた唐松岳はこの辺まで来ると見えなくなるが、白馬三山、五竜岳、鹿島槍ヶ岳、遠く、頸城や戸隠の山々、浅間山と四阿山、そしてハヶ岳、富士山、南アルプスも遠くにしっかりと見えていた。

丸山ケルンに着き、少し先のピークに登ると、

今日の目標だった唐松岳がよく見えた。名残惜しいが、疲れが出始めて、強風に耐えるのはきついこともあり、ここから引き返すことにする。下っていくと風はおさまりはじめ、大勢登ってくる。



第3ケルンより下は、陽光に満ちあふれていた。風がなければ、ぼかぼか陽気だったのだろう。

山荘の手前で滑落停止の練習をする。もしもの時のために、形だけでも知っておいて欲しかった。

予定より早く下りてきたので、第一郷の湯で温泉に浸かり、八方美人でラーメンを食べて、高速バスに乗り込んだ。後立山の山々は、逆光を受けて光り輝いていた。 記：網干



《参加者の感想》

今回は新宿発 10 時でゆっくりバスの旅。

あとは Gondola とリフトで上がるだけということでモードはすっかりバス旅行気分。緊張感もなにもなくだらっとした雰囲気白馬八方へ。しかしバスの時間が少しずつ遅れだして、Gondola 上部のリフト最終 16 時に乗れるの

か、そこから旅行気分は崩れ去り、Gondola 乗り場までみんな、走る、走る。いままでこんな経験なかったので想定外なことでした。

アルペンクワッドは動いていてほっとしましたが黒菱からのリフトは動いていない。白く浮かび上がる雪の斜面をジグザグしながら登った、モードをオンにし、必死になって登る。山は予想外のことが起きる、だからどんな状況になってもすぐに頭を切り替えられるようにしないとイケない。リーダーはそんなことも想定内なのか、てきぱきと指示をしている。リーダーはつらいよという替え歌があるがリーダーは責任があるからゆっくりできる時がほとんどない。いつも思うがちゃんとしたリーダーがいるからこそ、厳しい山にいてもちゃんと帰ってこれる。真剣な眼差しの中でも笑ってくれる、そんなことがわたしたちの緊張を和らげてくれるんです。

翌日は朝が早く、4 時の出発。3 時起床。まだ真夜中。山荘の好意で余計な荷物は置かせてくれるということで助かりました。バスの中で手に持っていた荷物、それを自分のザックにくくりつけて登ってくださった C さん、ありがとうございました。

空は満天の星。リーダーがあれがさそり座だよと教えてくれる。出発してから 1 時間ほどで東の空が赤く染まってきた。なんとも赤、ピンク、オレンジ、なんとも言えない色。なんて壮大なんだろう、しばしみとれる。端正で凛々しい鹿島槍、黒菱を隠した五竜岳も姿を現す。かっこいい。

右をみれば白馬三山が相も変わらず、壮大にそびえ立っている。白い峰々がほんのり赤く染まって見える。太陽が昇るとほっとする。あ〜生きててよかったと思う。風が強いのでなにもかもが見える。本当にすばらしかった。その臨場感はたとえようがない。その中で人は木から剥がれないように必死にぶら下がっている葉っぱのようなもので自然の中ではなんとも微

力だ。強い風がくるとよろっとさせられる。

リーダーがザイルを出してくれた。リーダーはだれかが滑落したら全員で止める んだよ～と風に負けないように大きな声でいっている。

残念ながら剣岳の見える稜線までいけなかったが、山はまたいける、生きてればまたいける。自然の猛威と自然の優しさ、両面を数時間

で感じさせてもらいました。またきます。そのときは優しい風でむかえてくださいね。

記：S.Kさん

コースタイム

3/16 黒菱平(16:10)…八方池山荘(16:40)

3/17 八方池山荘(4:10)…丸山ケルン(8:30)
…八方池山荘(11:15)

★発端丈山(3月23日)

参加者 会員(障害者3名、健常者7名)

会員外(健常者1名)

ボスミレの香水のような香りを楽しみながら歩いていく。今日初参加のDさんは、Mさんのサポートも体験している。3月入会のH君も、楽しく歩いているようだ。

3月になってから急に暖くなり、サクラの開花が例年より1週間も早く、今日は、車窓から見える桜は満開に近かった。

大仁駅に着くと、大きな岩壁を持つ城山が迎えてくれる。少し遠回りをして城山の登山口に向かう。川の畔の桜並木は、満開に近い状態だ。

登山口には、城山から発端丈山までの案内図がある。ここではじめて、城山は「じょうやま」と読み、発端丈山は「ほったんじょうやま」と読むことを知った。

登山道を登っていくと、岩壁が近づいてきた。岩壁に向かうパーティーもいる。岩壁は想像したよりも大きく、3ピッチくらいあるかなり大きな岩場だった。途中でよく見えるところがあった。4パーティーほどが取り付いていた。

白い桜は大島桜だろうか？ 足下には、ウラシマソウやタチツボスミレが咲き、ウグイスのさえずりも聞こえる。

城山山頂への分岐手前にテーブルが二つあったので、そこで昼食タイムとする。まさに春爛漫のぼかぼか陽気だ。

昼食の後、緩やかな登りで城山への分岐に到着する。そのまま発端丈山方面に向かう。名前の良く分からないスミレが咲き、ニオイタチツ



オオシマザクラ

葛城山方面への分岐を過ぎ、さらに益山寺への分岐を過ぎて登っていくと、発端丈山の山頂に飛び出した。ここは草原状になって開けているので、展望が素晴らしい。

足下には駿河湾が広がり、愛鷹山もよく見える。曇っていて見えなかったが、晴れていたら富士山が素晴らしい場所のようだ。遠くに見える陸地はどこかの島かと思ったら、山頂にいた地元の方が、静岡方面だと教えてくれる。晴れていると、南アルプスもよく見えるそうだ。登ってきた方向に目を移すと、天城山がよく見えている。

素晴らしい展望を楽しみ、集合写真を撮って下りにかかる。内浦学校前に下る分岐があったが、予定通り真っ直ぐ下ることにする。ここも、駿河湾がよく見えて、素晴らしいところだった。しかし、傾斜は非常に急だ。慎重に、そしてぐ

んぐん下っていく。H君が途中で転び、それから不機嫌になってしまった。そこは、よく知ったお母さんの知恵で、置いていくそぶりをする、しかたなく歩いてくる。

みかん畑の人が売っていたみかんをみんなが買い、下り着いたところが長浜のバス停だった。ここは、沼津行きのバスしかないので、近くの観光センターの方に聞いたら、少し行った三津シーパラダイスで乗れば、伊豆長岡に行かれるとのこと。背伸びをしてオートセイを見ながら歩くと、シーパラダイスに到着した。

記：網干

《参加者の感想》

久しぶりに早朝5時半に家をでて、品川駅に向かう。電車に揺られながら、ぼんやり車窓を眺めていると小田原あたりからおだやかな相模湾と満開の桜が見え、春爛漫の景色が楽しめた。

終着の大仁駅に近ずくと大きな岩山が見えて来た。この山はロッククライミングで有名な城山とのことで、我々一行はこの城山の中腹を経由して目的地にむかったが、途中岩肌に取り付いている3つのパーティを見分する事ができた。軟弱な私には、落ちれば命の保証がない事を金かけてよくやるなあ、との思いが頭を過る。

今回の山行は城山発端丈ハイキングコースというルートに行くのであるが、ハイキングと名付けられてる通り、それほどのアップダウンがあるでもなく、好天に恵まれ微風を頬に感じながら、快適に歩を進める。登り始めてから途中昼飯タイムを入れ3時間程で発端丈山への最後の登りにたどり着く。急坂を背と額に汗しながら頂上に立つと360度の視界が広がる。眼下に駿河湾、南方向に天城山系が見える。しかし富士山は雲に隠れ見えす。残念至極頂上から駿河湾への下り道は急勾配で慎重に降りる。途中一軒のみかん農家がシーズン終了との事で、みかんの大安売りをやっており、市価の半

値以下であったので多くの人買い求めた。儲かった気持ちを抱きながら、帰路は何時もの通りで、電車の中で談笑して家路に向かう。

富士山が見えなかったのは残念でしたが、まずまずの山行でした。記：A.Sさん



今回は春うららかであろう静岡の城山・発端丈山へ行ってきました。

城山ではロッククライマーが大声をかけながら岩を登ってました。同じ人間なのにこんなことができる人がいるんだ、すごいな～。岩の上にいる人が小さく見えました。

発端丈山へのアプローチはゆるやかで、すみれや桜が咲いていて春色の道。3日前の雪山とは違ってあたたかくて昼寝でもしたくなるような一日でした。同じ日本、こんなに違うものかと思いながらおだやかな気持ちで春を満喫してきました。残念ながら富士山は雲の中でしたが海を見ながら登る山は贅沢ですね。

みかん畑の中を歩いているとみかん農園の方がみかん、はっさくを売ってました。見てくれば悪いけど味は美味しい。Hくんが時折手をつないでくれました。思いもしなかったことなのでうれしい～。孫の手もいいがHくんの手もかわいくてあたたかい。陽気に歌を歌っている。いいね。

Sパパが息をきらしてMちゃんの手をつないで歩く姿にも感動してしまいました。みんなみんな支え合って生きてるんですね。Mちゃん、優しいお父さんで幸せだねって聞いたら「うん」

って行ってました。

お試していらした25歳のDくん。若かりし頃の松坂に似ている。道中終始にこやかでなんともフレッシュで爽やかな印象でした。いろいろな人のおかげでとてもホットな気持ちになれた山行でした。 記：S.Kさん

★鳴神山(4月21日)

参加者 会員(障害者2名、健常者6名)

昨夜から雨が降り始め、中止にするか判断に困ったが、天気予報を信じて、昼頃には雨が上がると読んで、予定通り実施した。ただ、計画していた本品登山口からのコースは沢筋のため滑りやすいことが懸念されるため、赤柴からのコースに変更した。これは大正解だった。雪の積もった沢筋は非常に危険だったと思う。

駒形登山口の少し先までタクシーが入ってくれたので、よかったと思ったら、なんと引き返していこうとする。せっかく来たので、ここで下ろしてくださいと下ろしてもらうが、もう1台は引き返していき、メンバーは登り返してきた。

しばらく林道を歩き、沢沿いの道へと入っていく。少し歩くと雪が積もっている。今は小雨が降っているが、明け方は雪だったのだろう。ニリンソウも寒そうにつぼみを固く閉じている。沢沿いの道から小さな尾根上の道に変わる。ミソサザイが元気に鳴いている。

雨もやみ、裏の肩に到着する。ここは冷たい風の通り道のようにとにかく寒い。そのまま山頂に向けて登っていく。

少し登ると、きれいなピンクの花が見える。アカヤシオだ。あまり期待していなかっただけに得した気分になる。雪が積もって滑りやすい斜面を慎重に登りながらも、次第に増えてくる

コースタイム

大仁駅(10:20)…城山登山口(10:50-11:00)
…城山分岐手前(11:30-12:00)…葛城山分岐
(12:55-13:00)…発端丈山(13:45-14:10)
…長浜バス停(15:30)

アカヤシオに歓声が上がる。アカヤシオのピンクと雪の白が織りなす彩りはすばらしい。山頂手前の見晴らしのよいところからは、赤城山がよく見えた。雨も完全に上がったようだ。



アカヤシオ

岩場を過ぎると展望のよい山頂に飛び出す。ここで昼食タイムだ。山頂の気温は5℃。山頂に温度計がある山も珍しいだろう。Kさんは、エスキモーのように羽毛服の帽子をかぶっている。雲海も広がり、雨上がりのすがすがしい展望を楽しみ、来た道を引き返す。

裏の肩からは鍋足方面への山道を下る。ここはほとんど植林帯で、スミレなども少なかったが、もう少し遅い時期に来ると、カッコソウが見られるようだ。次回の楽しみに取っておこう。

ミソサザイが飛んでいると思ったら、なんとコマドリだった。声は聞こえなかったが、ひさしぶりに姿を見られて感激だ。車道が近づく頃、念願のナルカミスミレと対面できた。子どもも高齢者も同じ目線で話す方が相手の顔がよくわかる。花も同じ、しっかり寝転んで、目線を合わせて写真を撮る。

予定より早く降りたので、タクシーが登って

くる方向に歩いて降りることにする。無事にタクシーと合流して桐生駅に向かった。

記：網干



鳴神山山頂にて

《参加者の感想》

自分は、山に行き始めて13年になりますが、六星山の会で1回の、雨の山行、アルプで1回の、雨の山行。それだけ、雨に打たれる事が、少ないのですが、アルプは、10年を過ぎ、再び、そろそろ、雨の山行、来るかなと思ったらジンスクス通り、家を出た時から雨ですし、桐生市は、寒く、残雪の山と言う感じでしたがアカヤシオが、たくさん咲いていて見事でした。

山頂の景色も1000mとは思えないほど素晴らしく、雲の上にいるように見えて、3000m級の景色と、錯覚するほどでした。

ミササザイ、オオルリ、カケス、ウグイスなどの声もさわやかな最高の一日でした。

記：M.Kさん



アカヤシオが満開だった

今日は桐生の名山、鳴神山にいった。

登り始めは雨が降っていたが、リーダーの予報どおり弱い雨でそんなに濡れることはなかった。

いざ鳴神山へいってみると雪一面で、こんな季節の雪景色に驚いてしまった。ややシャーベット状になった登山道は歩きにくく、下りにここは通りたくないなと思いながら山頂へ向かう。雪景色の中にアカヤシオのピンクが映える。こんもりした白い雪の花とアカヤシオのピンクの花が競演して咲いているようだった。

山頂へついてみると周り一面の雲海に囲まれる。ご近所の赤城山脈もだんだん姿を現してくる。しかし温度は低く、ダウンを着込んだらリーダーがまるでエスキモーみたいだといわれてしまった。

下山してるうちに晴れてきて青空も見えてきた。春の花と雪。自然はいろんな姿を見せてくれるからおもしろい。

一緒に歩くメンバーも愉快地陽気な人ばかり、お腹が痛くなるほど笑わせてくれる。リーダーは小さなすみれを撮るのに土の上に仰向けに寝そべりながら撮っている。そこまでしなくてもと思うが、その一生懸命さに心うたれる。なのでその姿を写真でとってみた。山の中では緑の芽がたくさん出てきていたが名前がわからない。雑草といってしまうが簡単だがTさんが天皇陛下が「雑草という草はないんですよ。どの草にも名前はあるんです。」っていったわよと話してくれた。

山仲間っていいですね。またまたいろいろな発見をさせてもらえました。 記：S.Kさん

コースタイム

駒形登山口(10:05)…赤柴登山口(10:35)…鳴神山(12:05-12:40)…裏の肩(13:05)…コツナギ橋(14:15)

★八丈島（10周年記念山行）（4月27日～29日）

参加者 会員（障害者1名、健常者11名）

☆4月27日

前夜、竹芝棧橋を出発して、9時20分頃、八丈島の底土港に着く。2泊させてもらう船見荘の方が迎えに来てくれている。宿に不要な荷物を置いて、富士登山道入り口まで車で送っていただく。ここからしばらく車道を歩く。

アロエはここでは雑草だ。路傍に無造作に生えている。アカバナリハコベやハチジョウテンナンショウが咲き、イチゴは甘くておいしかった。

ようやく八丈富士登山口に到着する。ここからは階段とその横につけられたコンクリートの道をひたすら登ることになる。我々の他にもいろんな人が登っていく。八丈高校の2年生は、70人の集団で、がんばって登っていった。茨城から赴任してきた先生はとても若く、生徒と区別できないくらいだ。海の方を眺めて、「何度見ても良いな～」と言っていたのが印象的だった。



山頂は風が強そうなので、途中で昼食とする。山頂のお鉢に着くと、やはり風が強かった。ここから山頂まではお鉢を4分の1周くらいするが、所々やせたところがあり、強風と共に注意しながら通過する。



時折、風によるめきながらも無事山頂に到着する。山頂で写真を撮ってくれた若いカップルは、宿も一緒だった。山頂から、もう少し八丈小島がよく見えるところに行こうと、お鉢をもう少し行ってみる。八丈小島はとがって格好の良い島だ。

長い石段を下り、舗装道路に出て、ふれあい牧場に行くことにする。ここでタクシーを呼んで、宿まで運んでもらうことにする。牧場では牛たちがのんびりと草を食べていた。

タクシーに乗って、南原千畳岩海岸に行き、続いて、玉石垣を見て、花見荘に行くことにする。海岸に押し寄せる波は迫力があつた。玉石垣は、島流しにあった人たちが積んだらしいが、とてもきれいに積まれている。

宿に戻って、タンクで運んでくれた温泉に入って汗を流す。温泉は塩味がする。明日に備えて、早めに眠りについた。

☆4月28日

朝食を食べた後、予約したタクシーで服部屋敷跡に向かう。ここでなんと、アカコッコに出会えた。伊豆諸島にしかない貴重な鳥に出会えてラッキーだった。ガイドさんの説明もすばらしく、歴史のことから植物のことまで教えていただいた。その後は、八丈太鼓と踊りを見聞きし、メンバーも一緒になって踊った。Kさんは、太鼓をたたかせてもらった。ドラムをやったことがあるだけに、とても筋が良くリズムカ

ルにたたいていた。



ここから唐滝に向かって歩いて行く。タネコマドリやモスケミソサザイなどがさえぎっている。ムシクイの仲間、イイジマムシクイのようだ。車道から林道になり、硫黄沼に立ち寄る。ここでも、八丈富士の山頂で会ったカップルと一緒にいる。彼らも自然が好きなのようだ。名刺を渡して、ホームページを紹介する。



林道が終わり、登山道になると、ほどなく唐滝に到着する。落差50mほどで、垂直に落下している。落水が、霧状になって、風に舞う。無数の水滴が光を受けて舞う光景は、吸い込まれていきそうなほどの美しさだ。

ここで昼食とし、滝の下で集合写真を撮って、来た道を引き返す。

途中から三原山への道に出られるはずだが、道が途中で終わっていたので、別の道を行ってみるが、こちらも途中で終わっている。再度、最初の道に行ってみると、藪になっているが、何とか行かれそうだ。道も途中から出てきた。

何とか車道に出て、三原山を目指す。小さな

コケリンドウがたくさん咲いている。三原山が見えてきて、車の通れない林道に入って山頂を目指す。八丈富士も見えてくると、山頂は近い。山頂からの展望は抜群だった。周囲には、アマツバメがたくさん飛んでいる。単独の登山者の人から写真を撮っていただく。山頂からタクシー会社に電話をして、迎えに来てもらうことにする。大池の入り口でタクシーと合流したので、大池を見るまで待ってもらう。小池はすでに池ではなくなって、原っぱとなっていた。大池は細長い池で、人が作ったような池だった。

タクシーに乗車し、見はらしの湯に行ってもらう。海がよく見える露天風呂がすばらしい見はらしの湯で汗を流し、次は登龍峠に立ち寄ってもらう。ここは、展望がすばらしく、逆行だったが、八丈富士がよく見えた。土産物屋でタクシーを降り、買い物をして船見荘に戻った。

船見荘の夕食は、バーベキューだった。宿のサービスなのか、たっぷり入った焼酎の回しのみがあった。

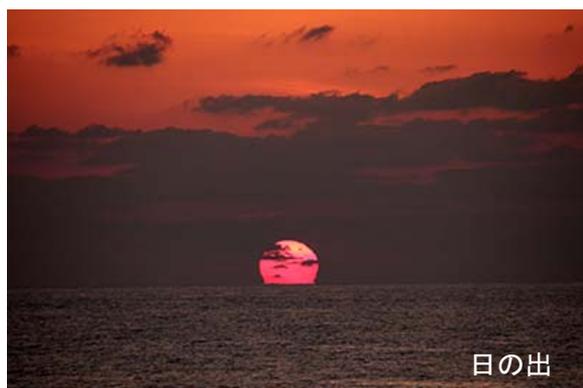


☆4月29日

今日は早起きをして、神湊漁港付近まで行って日の出を見る。雲があったが、真っ赤な太陽が水平線から姿を現した。日の出を楽しんで、宿に引き返す。

朝食後、宿の車で、港まで送っていただく。乗船手続きを済ませ、船が来るのを待つ。八丈高校の2年生たちが京都に旅行してきたのだろうか、八つ橋などのお土産を持って大勢下りてきた。一昨日、八丈富士に登った2年生たち

が出迎えてくれたようだ。



船からの八丈富士を楽しんでいると、前の方でトビウオが飛んだとKさんが言う。まさかと思っただが、よく見てみると、船に驚いたのか次々にトビウオが飛び始めた。こんな光景を見ることはないの、みんな喜んでた。

船内に戻ると、食堂で、ケーキが準備されていた。なんと、「アルプ10周年おめでとうございます」と書かれている。K.Nさんたちが企画して、準備してくださったそうだ。心遣いに深く感謝します。設立時からいる視覚障害者のKさんと一緒にナイフを持って、ケーキに入刀する。柔らかいケーキは、12等分すると形が崩れてしまったが、心もこもっていて、とてもおいしかった。

寝たり話をしたりしながら、長い船旅を楽しんで、竹芝桟橋で船を下りた。今回は、10周年記念山行でしたが、思わぬサプライズがあり、とてもうれしい気持ちで終えることができました。次の10年に向けて、気持ちを新たに進んでいきたいですね。記：網干

《参加者の感想》

2013年のGW第一弾ははじめて八丈島へ。11時間近い船旅から旅が始まる。

初日は海から綺麗にみえた富士山のような八丈富士をトレッキング。山への坂道をどのくらい歩いたろう。島の強い風に吹かれて流れる雲が印象的でした。八丈富士の登山道は9割以上階段で面白くない。しかしとにかく空と海

にかこまれた景色がよかった。とにかく階段を上ること1280段でお鉢めぐりが出来る山頂付近に到着。

山頂は風が強く、時折耐風姿勢になって言うように山頂へ到着。風が強くてお鉢めぐりはできなかったが十分に八丈富士トレッキングを堪能できました。

翌日は唐滝から三原山へ。これまた唐滝まで以外は舗装道路をトレッキング。唐滝でマイナスイオンばっちり浴びて気持ちよかったです。見晴らしの湯で海を眼下にまったり。船見荘の食事もある島の幸を山から海までもれなく食べ応え十分。いつになくなんとも贅沢な旅をしてしまいました。

八丈太鼓を見ることができて、そして舞台上踊ることもできて島の観光を充分楽しむことができました。流人の島でもある八丈島。コンビニもない、贅沢なものはなく、シンプルな暮らしがある。丸い石を使った石垣には感心してしまいました。見事な整列。一生懸命運んで作り上げたのでしょう。ここには歴史がそのまま残っている、そんなことを感じる癒しの旅でした。楽しい時間を一緒に過ごしていただいた皆様、ありがとうございました。記：S.Kさん

八丈島港から見た富士は、雄大に聳えています。

お昼に、K、Nさんからいただいた、島寿司が、最高に美味しかったです。後から、八丈島高校の遠足の一行が登って来て若いエネルギーをいただきました。850mほどの山でしたが、急登で、山頂付近では、火山岩の岩登りもあり、島ならではの、強風で、飛ばされて海に、吸い込まれそうで、山頂が、遠く感じましたが、地球が丸く見えるようなすばらしい景色でした。

丸い石積み歴史も、見れて、牧場で牛を見れて大変中身の濃い一日でした。

日曜日は、歌と踊りを見て、太鼓を叩かせて

もらい、三原山は、藪こぎで、あまり踏みならされていないような道でしたが、島のジャングルを体験できて、さわやかな雲の流れの早い島の風を感じて大変良かったです。

見晴らしの湯のような、マリンプルーの海に見える温泉露天風呂は、初めてでしたので、塩辛い湯と景色を感じる事が出来て大変良い山旅でした。 記：M.Kさん

10周年記念・八丈富士登山に参加して

二十数年ぶりの船旅でしょうか。26日の夜は、ちょっぴり体調への不安を抱えながらの竹芝棧橋出航でした。船内では眠っていたような起きていたような、ただただ時間の経つのが遅く感じ翌朝には、やや疲れ気味で八丈島に入港。でも下船してみると、目の前には、青い海と美しい山、そして澄み渡った青空。もう疲れは忘れていました。

八丈富士の山頂近くでは猛烈な風で、海まで飛ばされそうになりました。みんな必死で草木につかまりながら山頂へ。万歳です。民宿では夜空を見上げて「あれが北極星」、「真上に見えるのが北斗七星だね」の声に青春時代に戻った

★秩父御岳山(5月12日)

参加者 会員(障害者3名、健常者10名)
会員外(健常者1名)

天気予報が当たり、雨は明け方で止み、秩父に着く頃には、すっかり青空が広がっていた。

舗装道路を歩くのがいやだから、三峰口駅からタクシーで強石まで行こうという話になる。しかし、タクシーは1台しかない。1台で3往復してもらうことになる。バスは急行しかないので、強石には止まらないそうだ。

登山口に全員集合して挨拶を始める。今日は、

気分でした。三原山では少しばかり道に迷いましたが山頂に辿り着いて、またまた万歳です。

帰りの船内でのささやかな10周年記念パーティ。笑いあり、歌あり、もちろんお酒も。今回は思いがけなく、郷土芸能に触れ、また八丈島の歴史にも触れることができました。夕暮れどきのドライブもあって八丈島の自然を十分満喫できたように思います。

そしてなによりも口下手な私にとって、気遣いなしの男性陣と姉いもうとのような素敵な女性陣と少なからず心が触れ合えたように感じました。ありがとうございました。

記：H.Mさん

コースタイム

4/27 富士登山道入り口(10:25)…八丈富士登山口(11:30)…八丈富士山頂(13:00-13:10)…下山口(13:50)…ふれあい牧場(14:40)

4/28 服部屋敷跡(10:35)…硫黄沼(11:20-11:30)…唐滝(11:45-12:15)…三原山への分岐(12:35)…三原山(14:20-14:30)…大池(15:15)

高1のY君が初参加だ。どうして山仲間アルプを知ったのか聞くと、塾の先生からのおすすめだったそうだ。若いときに、いろんなボランティアを体験した方が良いという先生の考えがあったらしい。Y君は、自然が好きで、東京よりも自然の豊かなところに住みたいという気持ちもあるらしい。

登山口から反対側を振り返ると、4つほどピークを持つ形の良い山があるが、地図には名前がない。その山に背を向けて、登山道を上り始める。植林帯の急坂だが、ところどころ新緑の美しい雑木林がある。登山口から40分ほどで杉の峠に着く。

杉の峠からも急登が続く。樹林の間から和名

倉山が見える。さらに行くと、これから登る秩父御岳山が、ピラミダルに尖って佇んでいる。なかなか形の良い山だ。



山頂が近づくと、痩せ尾根となり、岩場となる。ロープが張られている。高所恐怖症のY君は、ゆっくりしたくない気持ちが強くて、ぐんぐん登っていく。Fさんのサポートは、Iさんが専念し、後ろをY〇さんが見ている。



痩せ尾根を通過すると、下山コースに使うタツミチへの分岐に出る。そこからほんの少しで山頂だった。山頂には祠があり、展望がすばらしい。正面に両神山、その横には奥秩父の主脈が続く。三宝山、甲武信ヶ岳、木賊山、手前には大きな和名倉山がどっしりと構え、その左奥には、飛龍山と雲取山が見える。その左手前には白岩山。両神山の右奥には、遠く浅間山が見え、西上州の山々が続き、その奥に、谷川連峰や赤城山も見えている。

すばらしい展望を楽しみ、集合写真を撮って、山頂を後にし、昼食はタツミチと強石コースの分岐で取る。



タツミチ方面への道もやや急だが、強石からの道ほどではなく、こちらを下山コースにして正解だった。タツミチ分岐からは、直接三峰口駅に下るコースを取る。山腹には、藤の花がたくさん咲いていて、なかなかきれいだった。

最後に、Y君にFさんのサポートを体験してもらおう。緊張したと思うけど、一所懸命にがんばっていた。

記：網干



《参加者の感想》

今日は埼玉県内の秩父御岳山へ。

新緑はまぶしく、おだやかな日差しがやわらかくてこち良かった。草木に光がさして、葉脈が見える。鳥の鳴き声もにぎやかだ。御嶽山は噂通りの急登。痩せ尾根はIさんがFさんをサポートしてくれた。後ろはしっかりとY〇さんがガード。

山頂からはたくさんの山々が見えている。ギザギザした両神山。端正な形の雲取山。昨年登った甲武信ヶ岳もみえて感慨深いものを感じ、あの時の記憶が思い出される。遠くにはうっすら白い頂の谷川岳もみえた。

今回は高校一年生のYくんが初めて参加。高所恐怖症のようでよく怖いんですといったのが、スピードは早い。やっと山から降りたときの笑顔が印象的だった。FさんがYくんをサポート方法を教えている。Yくんはやや緊張した面持ちだったが三峰口駅までFさんをサポートしていました。

先週の雪山とは違って、春満載の山行。緊張からときはなされて草木の匂いや鳥の声を聞きながらリラックスした気持ちで歩くことができました。登山の途中休むとき一本立てようというが、それは荷物が重くて下ろせないときに、木などを立てて、ザックの下に一本たてて休むということだとリーダーに教わった。

下山したところにマーガレットの花がたくさん咲いていた。IさんとKさんが「誕生日に」といってプレゼントしてくれた。リーダーからのおめでとうといってもらったアンドーナツも大変おいしかったです。いつになくうれしい

★鳴虫山(5月25日)

参加者 会員(障害者6名、健常者9名)
会員外(健常者1名)

6:50 浅草出発の七名が時間厳守で集合、朝早いHくん、Aちゃん兄妹は元気いっぱい。割安な回数券を購入し乗車、日光行きは後ろ2両のみで登山客でほぼ満席。

9:45 日光組も時間通り集まり準備体操、トイレを済ませ出発。するとすぐに男性と車にのる社長ことNさんとばったり、男性は誰なのでしょうか??(旦那様らしいですが)。

10:00 日光駅から15分ほどで登山口に。駅から徒歩15分で登山口に來れるとは貴重な山です。ゆっくりとまず神ノ主山(こうのすや

誕生日になりました。 記：S.Kさん

Cコースと言う事もあって、けっこうな登りで、登山者が、少ないためか、登山道が、踏み固められて無いところもあるように感じました。途中、痩せおねや、岩登りの変化にとんだコースで、アルプ創立メンバーの2班の班長のNさんは、前に、後ろに目配りをして、班の体力、疲労度、視力を考慮して、的確なリーダーシップを発揮して、大変良く、みんな快適に歩いていました。

山頂の景色も良く、もう夏山だと感じた一日でした。 記：M.Kさん

コースタイム

登山口(10:20)…杉の峠(11:00-11:10)…秩父御岳山山頂(12:35-13:25)…タツミチ分岐(13:55)…三峰口駅(15:25)

ま)をめざしゆっくり歩き始める。しばらくは勾配もきつくなく歩きやすい登山道が続くが神ノ主山手前は急斜面でハード。途中一人で千葉から来た登山者にアルプの名刺を渡し勧誘、入会してくれるといいのですが。



11:00 予定とおり神ノ主山到着。眼下には日光駅。晴れていれば男体山、女峰山を一望でき眺望最高とのこと、この日は曇っており残念。一休みして鳴虫山をめざし出発。ここからは杉

の根で滑りやすい急斜面が続くがこの日会員外として参加して下さった「まむし」ことYさんの楽しい歌とAちゃんとの掛け合いで楽しく難所をすすんでいく。



鳴虫山山頂にて

12:40 無事鳴虫山登頂。山頂は登山者でいっぱい、場所を確保して昼食。6週連続参加のKさんは冷やし中華持参、これからのシーズンにいかも、流行りそうです。

13:10 これからは急な悪路の下りのためお昼を少し早目に切り上げサポート体制をしっかり確認し出発。途中何度もHくんの悲鳴が、、、杉の根が歩きにくく怖い。雨だったら難易度が何倍にもなりそう、降らなくてよかった。



山頂に咲いていたヤマツツジ

15:00 怖さと疲れからやはりペースダウン。30分遅れたがサポート陣営の頑張りもあり無事神ノ主山到着。薄日も差し行きの時よりも視界がよくなりうっすら女峰山も。一休みし出発、まだしばらく急斜面が続くので慎重に進む。急斜面を下ってからはAちゃん「まぶしー、早くこーい」、まむしことYさん「いまいくぞー」の掛け合い、ほんとYさんは楽しい変な

人です、アルプに是非入会してほしいものです。16:10 日光駅到着。途中飲み物の買い出しもあり予定より40分遅れ。都内まで約2時間、いつものように電車で楽しく帰途につきました。参加者の皆様、お疲れ様でした。

記：佐藤

《参加者の感想》

先日はよく慣れ親しんだ鳴虫山へいきました。東武沿線に住まいがあるわたしはここへ何度もいっている。今回はとても愉快的SAリーダーのもと、新鮮な空気の中、歩いてきました。

ゆっくりペースで歩いてるせいか、こんな道あったかな？と何度も感じました。特急だと見過ごしてしまう景色が鈍行だとよく見える。同じく鳴虫山を好んで歩いているSUさんも同じ気持ちだったようで、山頂までこんなに長かったかなってっていました。



木の根の多い急斜面を下る

わたしも山頂までがすごく長く感じたが、そのかわり今まで見落としていたろう景色に巡り合えたのかもしれない。わたしはHくんと伴って歩きました。Hくんは歩きながらいろんな話をしてくれました。時々急坂があらわれ、怖くなると立ち止まってしまうものの、平坦な道が現れると、わたしに「走ってもいい？」と聞いてくる。「走ってもいいけどゆっくりね」というわたし。緑のトンネルが気に入ったようでわざわざ緑のトンネルをくぐる道を探して歩いている。

曇り加減な空で、杉の木の中を歩くと暗く感

じる下山で、Hくんは「夜になると暗くなります。家に帰れなくなります。」という。当たり前な会話かもしれないんだけど、わたしはすごく熱くなるものを感じて、Hくんの手を握り返しました。この日わたしはなんとも言えないあたたかくなる気持ちで一日を過ごすことができました。Hくん、ありがとね。また一緒に歩きましょう。

暑くなると思っていた今回の山行。わたしは冷やし中華をもっていったが、あたたかいラーメンを食べているYさんをうらやましく感じました。次はちゃんと天気予報を見て判断してもっていこうと思いました。

Sリーダーの山行は初めてでしたが、Sさん

の的確な判断と指示が行き届いていて、時には緊張を和ませてくれたり、時には真剣な面持ちで指示をしていました。Mちゃんとお父さんのあの手のつなぎ具合もやっぱりよかった。Mちゃんのお父さん、頑張ったというと、Mちゃんがはいと答えてくれる。いい親子だな～いろいろな場面でホットな気持ちになれた山行でした。ありがとうございました。

記：S.Kさん

コースタイム

東武日光駅(9:45)…登山口(10:00)…神ノ主山(11:00)…鳴虫山(12:40-13:10)…神ノ主山(15:00)…東武日光駅(16:10)

講習会報告

★気象講習会（八千代台東南公民館）（4月6日）

講師 気象研究家 弊氏

参加者 会員(障害者0名、健常者14名)
会員外(健常者2名)

第7回自然と親しむ子ども山登り教室の説明会のあと、気象研究家の弊氏をお招きし、気象講習会を実施した。

内容は、春先から夏までの気象の特徴と、登山で注意しなければならないことについて、弊氏の著書「気象情報の裏を読む」を参考にしながら、説明していただいた。

温暖化などの影響で、春と秋が短くなり、寒い冬と暑い夏が多くなっている。また、低気圧なども日本付近で発達するようになってきたので、今後の登山などでは、しっかりと気象情報をとらえ、無理をしない判断が求められることを学んだ。

記：網干

3月31日の岩登り技術講習会（鷹取山）は、雨のため中止しました。

ハイキング報告

★第19回ミニハイキング（佐倉城址公園）（3月30日）

参加者 会員(健常者10名)
会員外(健常者3名)

雨が心配だったが、今日の降水確率は低く、予定通り実施する。ただ、非常に寒く、TMさ

んは、マフラーまでしている。

7年ぶりに参加していただいたKMさんと久しぶりに会えて、とてもうれしかった。体調がすぐれず、なかなか参加できなかったのに、正会員を継続してくださったことにただただ感謝です。

Yさんのお孫さんMNちゃんは、少し物怖じしているが、とてもかわいい。今回は、佐倉市の人二人いるので、二人の案内で出発する。歴史民族博物館の敷地に入り、佐倉城址公園を目指す。ソメイヨシノ中心だが他にもいろんなサクラやハナモモが咲いている。満開になった後、雨が降っていないので、そのまま維持しているようだ。



三の門では、何か太鼓などの音も聞こえる。サクラは木の上の方だけに花があるので、どんな種類のサクラかと思ったが、ソメイヨシノだった。枝打ちしたことで、上へ上へと育ったのだろう。



3月27日のミニハイキング（酒々井から西印旛沼）と4月7日のふれあいハイキング（甲斐風土記の丘）は、雨のため中止しました。

本丸跡でシートを広げて昼食タイムとする。CKさんがおでんをたくさん持ってきて振る舞ってくださる。TMさんは大きなザックで鍋などを持ってきてくださった。本当にありがたい。寒い一日だったので、暖かいおでんは最高でした。

佐倉城址公園で集合写真を撮った後、歴史民族博物館を見て帰るといふKMさんと別れ、鹿島橋に向かう。そこから田園風景の中を歩き、谷津のようなところに入って行く。最年少のMNちゃんもかなり慣れてきたようで、笑顔で歩いている。

川土橋から手繰川沿いに歩く。手繰川はカワセミの住む川で、護岸工事をしていない貴重な川だ。まさに春の小川のような雰囲気を楽しみながら行くと、畔田谷津の入口に着く。予定時間を1時間ほどオーバーしているので、志津橋へは行かず、畔田谷津経由でユーカリが丘駅に行くことにする。畔田谷津は、まさに里山と谷津田が残るすばらしいところだ。芽吹きの木々と共に、春の雰囲気を醸し出している。

車道に出て、そのままユーカリが丘駅には向かわず、小さな道を通ってユーカリが丘に通じる道に出る。ユーカリが丘駅から真っ直ぐ伸びるこの道は、ユキヤナギやレンギョウが植えられ、とても雰囲気の良い歩道だ。

最後まで雨が降られず、助かりました。最年少のMNちゃんも本当にかんばって歩き通しました。これが自信になって、山道なども歩けるようになるとうれしいね。参加されたみなさま、お疲れさまでした。記：網干

コースタイム

京成佐倉駅(10:55)…佐倉城址公園(11:45-12:40)…万福寺(14:10-14:20)…ユーカリが丘駅(15:50)

個人山行報告

★中岳(3月2日～3日)

参加者 会員(障害者1名、健常者6名)

☆3月2日

茅野駅からバスで八ヶ岳に向かうが山頂付近は雲に被われている。冬型が強すぎて、八ヶ岳も少し影響を受けているようだ。

すばらしい天気的美濃戸口から凍り付いた林道を歩く。最初はアイゼンなしで歩いていたが、途中からアイゼンを付ける。アイゼンを付けると安心して歩けるため、ペースが上がる。

美濃戸でお昼を食べ、北沢に向かう林道を登る。北沢に入ると、次第に曇り空になり、赤岳鉱泉の近くでは、ちらちらと頬に感じるものがあった。

赤岳鉱泉で受付を済ませてから、ジョウゴ沢に向かう。寝不足のNさんは、小屋で休むことにする。Iさんも途中で引き返した。



ジョウゴ沢でアイスクライミング体験

ジョウゴ沢のトレースをたどり、下りてきた人にF1はもう少し聞くと、すぐそこだが雪に埋もれて滝が見えないとのこと。もしかしたら登れないかも知れないと思ったが、一つ上部のF2まで行くことにする。

F2は、F1よりかなり大きく、ザイルを持ってきていないので、上まで上がるのは無理と判断し、下の2mほどを登る体験をしても

らうことにする。アイスバイルがないので、登りにくいが、私の短いピッケルと各自のピッケルを使って、ダブルアックスで登ってみる。ピッケルのピックを氷にたたき込み、アイゼンの前爪を氷に蹴りこんで登るが、体験できたことをみんなから喜んでもらった。時間がないので、1回ずつ体験して、赤岳鉱泉に引き返す。

☆3月3日

今朝は、3時30分起床で4時30分出発となった。予定より30分遅れた。

Nさん先頭で、中山乗越まで登り、行者小屋で朝食タイムとする。文三郎道に向かうトレースを利用し、途中から阿弥陀沢へのトレースがあると思ったが、阿弥陀岳北稜に向かうトレースしかなくて、迷ったが、北稜へのトレースを昨日付けたという人が、大丈夫だから阿弥陀沢へ行けという言葉に押されて予定通り阿弥陀沢へ向かう。



夜明け前の阿弥陀沢を登る

北稜へのトレースは、すぐに上に上がっていたので、上がらずに阿弥陀沢へ入っていく。ここからは、踏み跡がなく、自分たちでトレースを付けることになる。まずは私が先頭で行くが、途中からYさん、Kさん、Cさんと先頭を交替しながら登っていく。膝下まで潜るところもあったが、ほとんど潜らないところもある。比較的雪も締まっていて、雪崩は

大丈夫と判断した。

後が遅れているが、ルートが間違っていると正しいルートを探さなければならないため、早め早めに上に登り、状況を確認しながら上がっていく。稜線直下は、雪が硬くなり、アイゼンがこ気味良く利いた。

稜線に出たところで、ロープで繋ぎあうことにする。稜線は場所が狭く、3人立っているのが限界のため、先頭のメンバーは、早くロープを繋ぎあい、少し上に登っていることにする。全員揃って、登り始めるが、雪が非常に硬く、アイゼンの前爪と靴のつま先がほんの少し雪に食い込むくらいで、これでは下りは後ろ向きに下らなければならない状況だ。少し上がって上を見るが、みんなをロープで確保できるような灌木や岩もほとんどない。そのような状況を見て、阿弥陀岳をあきらめることを決断する。



阿弥陀の科尔から中山に登る

みんなと合流すると、このまま下りたいという人もいたが、せっかくここまで来たのだから中岳に行ってみることにする。阿弥陀岳と中岳の科尔まで下り、両側の切れたきれいな雪稜を登り始める。まだ誰も歩いた跡がない純白の雪稜は、とても美しい。ただ、雪庇などがなければ注意しながら慎重に登っていく。

かなり急なところもあったが、無事に中岳山頂に到着した。阿弥陀岳をバックに集合写真を撮り、赤岳との科尔に下っていく。ここも急だが、気持ちよく下れる。科尔で少しゆっくり休憩した後、文三郎道への分岐に登る。

疲れの出始めた体に、この登り返しはさすがにきつかった。SKさんは、膝を痛めたようで、かなり苦しみながら登っている。分岐で、KさんとYさんにテーピングしてもらい、バファリンを飲んで痛みを抑さえてもらうことにする。



権現岳と南アルプスを望む

SKさんの膝の痛みは、薬とテーピングが利いたのか、すぐに治まり、文三郎道の急な下りも順調に下れた。赤岳西壁には、主稜に取り付くパーティーがたくさん見られた。

陽光の満ちあふれた行者小屋で休憩し、南沢を下っていく。美濃戸では、プロガイドをしているKさんに久しぶりにお会いした。Kさんとは昨年の西穂独標に行く際、ロープウェイ乗り場で会って以来だ。今回は二人のお客さんをお連れしていた。

美濃戸口への林道を歩き、ふり返ると阿弥陀岳がひときわ高く聳えていた。「また出直してくるからな～」と心の中でつぶやいて、美濃戸口への林道を急いだ。 記：網干

コースタイム

3/2 美濃戸口 (10:30) … 美濃戸 (11:45-12:10) … 堰堤広場 (13:05-13:15) … 赤岳鉱泉 (14:30 ジョウゴ沢 F2 までアイスハイク)

3/3 赤岳鉱泉 (4:30) … 行者小屋 (5:15-5:40) … 阿弥陀中岳の科尔 (8:50-9:00 阿弥陀に向かうが雪の状態が悪く引き返す) … 文三郎道分岐 (9:35-9:50) … 行者小屋

(10:40-11:00)…美濃戸口(13:30)

★陣場山から高尾山(3月10日)

参加者 会員(障害者1名、健常者3名)

参加人数が最低人数に満たなかったこと、強風の予報で天候に不安があったことから吾妻山山行を中止にしました。悪天候に対応できるようよく知っているルートでかつ途中避難路が多く不測の事態に対応しやすい陣馬山～高尾山を個人山行として実施しました。

気温が高く強風だったため大量の花粉が杉から飛散しており砂ぼこりとあわさって視界は悪く展望はあまりよくありませんでした。

KさんとSは鼻水、くしゃみ、目のかゆみとの戦いでした……。それでも雨にふられ

ることもなく陣馬山から高尾山の尾根歩きをゆっくり楽しむことができました。

記：佐藤



陣場山山頂にて

コースタイム

陣馬高原下(9:30)…陣馬山山頂(10:20)…
景信山山頂(12:40 昼食)…高尾山山頂
(15:00)…高尾山口(16:00)

★槍ヶ岳(5月3日～5日)

参加者 会員(障害者1名、健常者7名)

☆5月3日

夜行バスが上高地に到着する。穂高連峰がくっきりと見えて、すばらしい天気だ。

河童橋で山に登る前の写真を撮って、出発する。ひんやりと冷えた上高地の空気はすがすがしい。ゴジュウカラやコガラの歌声がこだまする。ただ、まだ寒すぎるのか、オオルリやコマドリなど夏鳥の歌声が聞こえないのが気がかりだ。

横尾に続く林道は、何十回も歩いた見慣れた風景だが、やはり気持ちが高ぶる。前穂や北尾根、屏風岩など、思い出の岩壁について目が行く。

横尾からは、完全に雪道になる。凍って滑りやすい栈道を気をつけて通過する。横を流れる

梓川の流は、エメラルドグリーンで美しい。槍見河原に着くと、明日登る予定の槍ヶ岳の穂先が見える。さらに、一ノ俣、二ノ俣と過ぎ、槍沢ロッジに到着。部屋は私たち8人が貸しきりだった。

☆5月4日

夜半、外に出てみると、雲が少しあるが星空が望めた。出発は、4時を予定していたが、少し遅れて4時25分に出発する。5月の日の出は早い。ヘッドライトはすぐに不要になる。

樹林帯を登り、大きな岩の赤沢岩小屋を過ぎ、ババ平のキャンプ地に到着する。多くのテントが張られていた。ここからは、槍沢の雪渓登りが延々と続くことになる。

まずは、大曲を目指して歩く。振り返ると、蝶槍の上にあかね雲が綿菓子のように浮かんでいる。大曲からしばらく歩いたところで、か

なり遅れたYさんが心配になる。相談し、Yさん夫妻とKさんは、後からゆっくり登ってくることにする。

グリーンバンドと呼ばれる最初のモレーンのきつい登りをがんばると、槍ヶ岳が正面に大きく見えるようになる。傾斜は落ちたが、ゆっくり休めるところがないので、そのまま登ることにする。それでも一度は休まなければと思い、ピッケルのブレードを使って雪渓にバケツを掘り、ザックが滑り落ちないようにする。

そして、最後の槍の肩に登る急登にかかる。そのとき、大声が響いた。滑っていたスキーマーのスキーが外れて、雪渓を滑り落ちたのだ。勢いが付くので、スキーが人にぶつかったら大けがをする。大声で知らせてくれた人に感謝です。スキーは、すごい勢いで滑り落ちていった。その後、もう一人のスキーマーが転倒し、数メートル滑落した。しかし、ストックが流されただけで大事には至らなかったようだ。



最後の急登をがんばって、槍の肩にある槍ヶ岳山荘に到着する。手続きを済ませ、休憩した後、槍ヶ岳に登る準備を始める。玄関に行くと、Yさん夫妻とKさんが到着していた。私が二往復しようと思っていたが、合流したのなら、一緒に行こうと、急がせる。「もたもたするんじゃない〜」という私は、鬼軍曹と呼ばれることになった。鬼軍曹と言えば、中央アルプス千畳敷の救助隊長が有名だった。同じ名前と呼ばれて光栄だった。

とにかく急いで準備をしてもらい、アンザイ

レンして槍ヶ岳山頂を目指す。しかし、すでに周囲は霧に包まれ視界がない。風もかなり強い。トレースのついた雪の斜面を登り、小さな岩場を超えてさらにトラバース気味に雪の斜面を登る。このとき、途中で雪の突起にザイルをかけて進めば、それがランニングピレーと同じ役割を果たすので、わずかだが安全性が高まる。

小尾根を超えて北面に入る。ここもトラバース気味に進み、雪と岩のミックスを登ると、最初のはしごとなる。ここで、下りてくる人を待つが、いつまでたっても途切れない。風は強く、雪も降り出した。私たちの後に登ってくる人たちもいない。残念だが、ここで引き返すことにする。下りは登りより難しいので、慎重に下ってもらう。



槍ヶ岳山荘は、8人で二部屋使わせてもらえた。ゆっくり休んで、英気を養うことができた。

☆5月5日

夜半に外に出てみると、少し雲があるが満天の星空に近い。朝食が5時30分。日の出が4時50分くらい。人数を制限し、3時半に起きて4時に出発すれば日の出を見て、朝食に間に合いそう。3時半に起きてみんなを起こそうと思ったが、寝過ごしてしまい、がたがた出発準備を始めるパーティーの音で起きたのが3時50分。しまったと思ったが、いけるところまででもと思い、登ってみたい人を起こす。

大急ぎで出発準備をして、4時25分に出発

する。ヘッドライトはすぐに不要になったが、岩と雪のミックスはなかなか厳しい。人数が多いこともあり、最初のはしごを超えて、次のはしごにかかり、その上の鉄杭の打たれた岩場まで来たところで、時間切れで断念する。山頂も見え、もう少しだが、上高地発のバスに遅れることはできないため、あきらめて下山する。



最終日、穂先への階段を登る

少し下ったところで、目に入ってきたのは、モルゲンロートに染まった穂高連峰だった。ピンクに染まるその美しさは、たとえようがない。ただただ心にしみいるばかり。「また来るのを待っているぞ」と穂高が語ってくれたように感じた。



モルゲンロートに染まる穂高連峰

小槍の向こうには、薬師岳や立山が見える。槍の肩からは、笠ヶ岳や黒部五郎岳、双六岳、三俣蓮華岳、樅沢岳、鷲羽岳、水晶岳などが見える。純白のその姿もたとえようもなく美しい。そんな風景に後ろ髪引かれる思いで、小屋で朝食を取り、下山にかかる。

下山はどんどん飛ばすが、ペースにかなり幅があるので、Y夫妻が気を遣って、早いメンバ

ーで先に下ってくださいと言ってくれる。もしものことを考えて、バスのチケットを渡し、他のメンバーは先に下らせてもらう。



槍の肩にて

ジグザグでないだけに、下りは夏道より遙かに早い。夏のコースタイム3時間半のところを2時間15分で槍沢ロッジに到着。その後も、ぐんぐん飛ばして、小梨平に13時40分頃到着。お風呂に入ってゆっくり汗を流し、上高地に向かう。程なくYさんから電話があり、すでにバス停に着いているとのこと。

みんな、それぞれに精一杯がんばった槍ヶ岳。なかなか簡単には登らせてくれませんでした。

たかが土の瘤、されど土の瘤。槍よ、また来るからな。

記：網干



槍沢にて

《参加者の感想》

群青色に近い濃いブルーの空にそびえる槍ヶ岳は圧巻でした。

穂先には時間切れで立つことができませんでしたが、今回は「あの人達すごいね！」と言われるくらいレベルアップし、みんなで山頂に立ちたいと思います。

今回の山行では以下のスキルが必要であると感じました。

- 1) 計画した日程内に歩ききることができる体力
- 2) 服装や装備の状況に応じた適用 (-10 度から体感 20 度位までの気温変化に対応できる装備)
 - ・低体温症と凍傷の予防 (フェイスマスク、フード、ネックウォーマー等の適宜着脱)
 - ・装備の着脱時は要注意が必要 (予備の手袋は必携)
 - ・強風時はゴーグル着用がお勧め (防寒、視界確保)
- 3) 次の行動への準備 (予定変更の確認やペース配分)
 - ・人任せにしない
 - ・平常心を保つ
 - ・ベストを尽くす
- 4) アイゼンとピッケルワーク (特に岩場) やロープワークの技術
 - ・岩場でアイゼンを付けての練習は必須
 - ・アンザイレン時の前後ロープコントロール
 - ・岩を利用したセルフビレイ (各メンバーの間で岩に巻きつけながらすすめばリスク低減となる)

今回も貴重な体験をさせていただきました。いろいろな場面で魂に響くお言葉を頂くことができ、とても嬉しかったです。皆さま、本当にありがとうございました。山は本当にいろいろなことを教えてくれますね。山と仲間に感謝です。
記：M.Yさん

以前から念願していた残雪残る槍ヶ岳に行ってきました。

朝5時30分に上高地についたときは、またきてしまった～、この場所。感慨ひとしお。ここからが登山のはじまり。初めてここに来たときと同じ緊張感。

上高地、明神、徳沢、横尾。慣れ親しんだ道。GW 連休、たくさんの方が大きなザックでゆきすぎる。横尾で穂高へ行く道・槍ヶ岳へ行く道と分岐する。栄光の架け橋 (横尾大橋) を左手にみて右手に進む。梓川は水が澄んでいて吸い込まれるようなエメラルドブルー。空気は冷たいが、せっせと歩いている私たちにはちょうどいい。樹林帯で小さな小さな槍の穂先がみえた。真っ白の槍、感激～

2日目、一番エネルギーを使う一日が始まる。1200m の標高差を直登する。きつい、足のあゆみも亀になる。槍を目指して無我夢中で上へ上へ目指すが、最後の急登は30歩歩いて、ひと呼吸のあゆみだった。槍の肩についたときは槍ヶ岳は真っ白だった。すぐに槍へ出発。準備がもたついで、みんなを寒い中待たしてしまった。槍の山頂へはいけなかったが、Sさんのここが山頂よといった言葉がうれしかった。

3日目早朝再チャレンジ。時間切れ。最後のはしごが見え、山頂で写真を撮る人も見えていた。昨日よりちょっと高い、またしてもここがわたしたちの山頂。

黎明の朝をむかえて、その美しさは艸玄そのもの。雪のアルプスは厳しいがその魅力はそれ以上のものがある。帰りは滑るように？転がるように、下る下る。こんな坂道をよく登ったもんだと自分に感心してしまう。横尾でのんびりかと思いきや、すぐに出るといふ。休みはほとんどない。とにかくわたしの短い足をフル回転させて歩く。横尾、徳澤、明神、お風呂のあるキャンプ場まで2時間30分。いままで歩いた中で最速の速さ。やればできるもんだとまたまた感心。人の力は無限で、できないと思ったらできない、できると思ったらできる。そんなこと当たり前のことを再確認させてもらった。

なぜあんなに上高地に急いだのか、それはあとからくるY夫妻と連絡をとるためだとあとで気がついた。携帯は上高地に近くなると繋がらない。Yさんは横尾か徳澤で公衆電話で

連絡がとれる。それでいまでもどこにいるかがだいたい読める。すごいリーダーだなと思いました。そんなことだれにも相談もせず一言も言わず、ひとり頭の中で計算していたのでしょう。そのことにやっと気がついたとき、わたしは感涙してしまった。どこまでも人を中心に考えているリーダー。槍ヶ岳山頂もリーダーとSさんだけならザイルなしでいけたらう。それでも未経験なわたしたちを置いていかないで連れて行くこうとする。そんなリーダーに、わたしはどんなことばで感謝の言葉をいったらいいんだろう。

山仲間アルプに出会えたこと、どんなことにも屈することがないリーダーに出会えたこと。心より感謝いたします。心温かい仲間に乾杯。ありがとうございました。 記：S.Kさん

2年ぶりの上高地は、以前より寒く、お腹をこわしてしまいましたがSさんから、薬とカイロをいただき、天候も良く、槍沢ロッジまで快適でした。

5月4日の本番は、大曲からのきつい上りもなんのその、肩にくい込むザイルの重さだっ

すばらしい景色を感じては、へっちゃらで、ぐんぐん登って、途中、トレースのわかりにくい所も乗り越えて、槍ヶ岳山荘に到着して、部屋の窓から見た、槍の穂先が見事で、写真を撮ろうとカメラを構えた瞬間から、みるみる雲に、槍の穂先が消えて行きました。荷物を、デポして、槍へのアタックは、大渋滞と、吹雪で、今回は山頂は、諦めましたが、良い経験と、楽しい山行で、また槍ヶ岳に会いに行きたいと思うすばらしい山旅でした。 記：M.Kさん

コースタイム

5/3 上高地(6:40)…横尾(9:40-10:30)…一ノ俣(11:55-12:30)…槍沢ロッジ(13:30)

5/4 槍沢ロッジ(4:25)…ババ平(5:00-5:15)…大曲(5:50-6:00)…槍ヶ岳山荘(9:50-11:00)…槍ヶ岳途中まで往復…槍ヶ岳山荘(12:55)

5/5 槍ヶ岳山荘(4:25)…槍ヶ岳途中まで…槍ヶ岳山荘(5:30-6:35)…槍沢ロッジ(8:50-9:10)…一ノ俣(9:50-9:55)…横尾(10:55-11:15)…小梨平(13:40)

その他事業報告

★定期総会開催

5月26日(日)に第10回目となる定期総会を開催しました。

正会員総数80名に対し、当日参加18名と書面委任42名の計60名の出席があり、総会が成立し、柏樹氏を議長に選任して実施されました。

昨年度の事業・会計報告、監査報告、今年度

の事業計画及び予算案が承認されました。また、今年度は役員改選の時期となり、新しく栗谷川氏が理事として就任することが承認されました。

詳細は、次回機関誌送付時に、定期総会議事録をお送りしますので、ご確認ください。

☆活動紹介映写会開催

第5回目となる活動紹介映写会を実施しました。

広報やちよ、八千代よみうり、やちよ市民活

動サポートセンター、八千代台東南公民館、八千代緑が丘公民館、村上公民館、八千代市総合生涯学習プラザなどを通じて広報を行い、会員

以外の方の参加は、6人でした。会員の知り合いの方の参加もあったが、今回初めて山仲間アルプを知った方もいました。

映写会では、2012年度に実施した「共に楽しむ登山」で行った入笠山、赤城山、秋田駒ヶ岳、船形山、「登山技術及び体力向上コース」で行った東沢釜の沢、第6回目の「自然と親しむ子ども山登り教室」で行った全ての山のビデオ（ビデオカメラが壊れた北横岳を除く）と、2012年に撮影した写真のスライドショーを上映しました。

当日は、事前準備が不備だったため、会場の映像装置がうまく作動せず、大幅に開始時間が遅れたことを、参加されたみなさまに深くお詫び申し上げます。開始時間が遅れたため、当法人の説明などを割愛させていただきましたことを重ねてお詫び申し上げます。

会員以外の方にアンケートをお願いし、二人の方から回答をお寄せいただきました。その結果は、下記の通りです。

1. 映写会の案内がある以前にNPO法人山仲間アルプをご存じでしたか？

- a. 良く知っていた 2
- b. 名前だけは知っていた 0
- c. 全く知らなかった 0

2. お住まいはどちらですか？

- a. 八千代市内 1
- b. 佐倉市 0
- c. その他千葉県内 1
- d. その他の県 0

▲1%支援制度に今年も申請しました

今年も「自然と親しむ子ども山登り教室」のスタッフ交通費などを申請しました。なかなか多くの支援金が集まりませんが、少しでもいただけることに感謝して、これからの活動に生か

3. 今回の映写会があることを何で知りましたか？

- a. 広報やちよ 0
- b. 八千代よみうり（または佐倉よみうり、北総よみうり） 0
- c. 総合生涯学習プラザ内のチラシ 0
- d. 市民活動センターのホームページ 1
- e. 知人からの紹介 0
- f. ホームページ 1
- g. その他 0

4. 本日の映写会に参加されて、山仲間アルプの活動内容をご理解いただけただけでしょうか？

- a. 良く分かった 2
- b. 何となく分かった 0
- c. 良く分からなかった 0

【理由】（自由記述）

・もくもくと山を登る参加者のみなさんの力強さを感じた。会員のみなさんのチームワークも伝わった。

5. 山仲間アルプの活動をどのようにお感じになりましたか？（自由記述）

・自然の楽しさだけでなく厳しさ、迫力が伝わった。

・ふれあいハイキングには何度か参加したことがあります。今度は本格的な山行にも行ってみたいと思いました。

記：網干

していきたいと思います。

八千代市在住のみなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

各種連絡事項

▲第14回視覚障害者全国交流登山東日本大会実行委員会を結成

2014年度に実施する第14回視覚障害者交流登山大会の幹事団体を当法人が務めることについてはすでにお知らせしていますが、実行委員会を結成し、定期総会終了後にキックオフを実施しました。

実行委員は、理事の網干、山口(雅)、箕輪、佐藤、餘永(光)と正会員から相澤、見神、柏樹、市川、中村(浩)、中村(和)、茅原、餘永(耕)が務めます。さらに理事をお願いする方が増えると思いますが、その際はよろしく願いいたします。

計画では、来年9月13日(土)～15日(月)に国立警梯青少年交流の家で開催する予定です。登る予定の山は、警梯山、安達太良山、五色沼ハイキングを計画しています。場所の選定は、震災と原発被害で大きな影響を受けている福島県に少しでも経済面などでプラスになればと決めて決まりました。

これから、下見を実施し、変更が出るかもしれませんが、全国交流登山が成功裡に終わるよう、会員のみなさまのご協力を切にお願いいたします。

△登山入門(無雪期)と冬山(積雪地・残雪期)登山入門のレジメを作成しました

登山入門と冬山登山入門のレジメを作成(餘永理事が作成)しました。安全な登山を行うために必要な知識や心構え、体力、技術、装備などをあげていますので、よく読んでいただき、さらにより詳しい参考書なども読んで、知識を磨いてください。

なお、冬山登山については、未経験な人同士

で行かず、必ず経験豊富なリーダーの元に実施してください。山は、基本的には、山中にいただけで、町よりも危険なところになります。冬山は、低温や多くの雪がありますから、それだけで危険度は何倍にも上がります。そのことを良く認識して、安易に考えないようにお願いします。

会員情報

◎新入会員のお知らせ

3月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしくお願いします。(敬称略)

正会員

5名

未成年会員

3名

●退会のお知らせ

残念ですが、下記の方が退会されました。

4名

編集後記

・理事長のつづやき

三浦雄一郎さんが80歳でエベレストに登頂しましたが、多くの方に感動と元気を与えたのではないかと思います。ただ、エベレストの一般ルートの入山料は、25,000ドル(2002年以前は70,000ドル、入山料以外にも膨大な費用がかかります)だそうで、普通の登山家には高嶺の花となっています。

自らの肉体を鍛え、多くの人たちのサポートの元に、記録に挑戦することも、多くの人に希望を与え、大きな価値があると思います。

・次回発行予定は、9月です。

しかし、どうしても私には「自分のための道楽」として写る部分が多く、それよりは社会のためにすべてを捧げたマザーテレサや宮沢賢治らに惹かれるものがありますし、少しでもそちらの方向に向かって生きていきたいなという思いが強いようです。

今年度は、山仲間アルプ11年目のスタートですが、NPOの活動は社会のための活動であることを忘れることなく、次の20年目を目指して進んでいきたいと思っています。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ！！

